

## イベントや交流を通しての地域活性化

横瀬町全域地区 立教大学観光学部

### 1 活動目的

首都圏の若者を含む、町外のゲストを呼び込むことで、来訪者の農業や農産物あるいは加工品への関心を高める。また町の認知度をより高めて、リピーターを増やす。最終的にはIターン・Uターンによる少子高齢改善、それらを前提とした脱日帰り、宿泊滞在 destinations 化を目的として、地域ブランディングの向上を目指す。

そのために現地の方と協力の元、春・秋のマルシェなどにおいて町の魅力を創出・発信できるようなイベントを学生が目線で考えてゆく。

横瀬町、立教大学双方と連携協定を結ぶ武蔵野銀行のCSR部門である地域サポート部のネットワークを活用し、地域の農林業と県内商工業の新たな連携を「よこらぼ」（官民協働プラットフォーム）ベースでの提案、実現も目的の一つである。

### 2 活動地域の現状

横瀬町は人口8000人強で、面積は50平方キロ足らず、人口密度は166人で都下西多摩郡に相当する。都内から70キロ圏内で町外での三次産業従事者が6割を超える。秩父域内の他地区同様、65歳以上の高齢化率は3割を超え、対策が急務である。

本活動では、外来者の多い秩父市や飯能市と違い、地元の方々のみが参加し、比較的小規模なイベントをサポートしているが、冬期のあしがくぼの氷柱は、日によっては来場者が町内人口を超え、近年は期間中計10万人以上の参加者が集まり、メディアなどで盛んに取り上げられるほどである。春期の羊山公園の芝桜は、公園所在地は秩父市だが、横瀬駅をゲートウェイとして町内に多くの観光客が押し寄せ、これらはマスツーリズムといってもよい規模の例外事象である。

こうした状況のもと、今年も若者目線の活動によって、活動による若者来訪含め、地域のにぎわいづくりが少しでも果たされていれば幸いである。

### 3 活動内容

#### ①地域イベントスタッフ参加

##### ○「夏の自由研究」（夏休みの親子向けイベント）

- ・マス釣り体験
- ・ドローン体験
- ・座禅&写経体験@東林寺
- ・地球惑星科学者といく地球を感じるプロジェクト
- ・見方が変わる！自然観察指導員と自然を感じるプロジェクト

#### ②地域イベント企画参加

##### ○夏の自由研究「あつまれ！学びの森 in おうちキャンプ」（8月）

- 町歩きイベント「氷柱だけじゃない冬の横瀬町。撮って巡ってよこぜ旅」（3月28日 実施予定）

## 4 成果

### ①地域イベントスタッフ参加

体験型のイベントが主であり、横瀬町の自然や既存の施設を活用したことにより横瀬町の魅力向上に繋がった。家族連れが多く参加していたということもあり、終始和やかな雰囲気の中で子供たちが楽しんでいる場面が数多く見られた。自由研究と題している子供向けのイベントであることから、家族の夏のイベントとして継続的に参加してもらえることが期待される。学生スタッフとしても、イベント補助としてだけでなく、積極的な参加を通じて子供とのコミュニケーションを作り出すことができた。

### ②地域イベント企画参加

学生主体で発案、企画、当日の運営まで行った。「防災×キャンプ」という視点で、コロナ禍でもおうちで楽しめるツールを考え提供した。コロナウイルス感染症対策のため、多くの人数を上入れることができなかったが、その分少人数で内容度の濃いコンテンツが作成できたと思う。夏のイベント企画は初であったが、アンケートでも満足度が高く、町長はじめ地元の評価もあったので、来年以降も継続して行ってゆける予定である。

## 5 課題

### ①学生による主体的な挑戦

イベントと関わる中で、参加者にはリピーターが多く夏の自由研究などを毎年楽しみにしている参加者も多くいることがわかった。そのため、年を重ねるごとに内容を変革していく必要がある。長年継続して行っているイベント以外に、学生の目線で主体的にイベント内容を考えていくべきである。

### ②地元の方々との活発な交流による地域活性化への貢献

イベントを企画・実行していく上で、私たち学生が町をよく知ることは不可欠である。そのため何度も訪れ、そして地元の方々と交流することが大切である。地元の方々の意見や声を取り入れた上で地域貢献をしていく。また今後は、地域の高校生や学生とも協力して若者同士での意見交換や交流も深めていきたい。

### ③地域の魅力発掘・発信

最終的な目標である横瀬町への I ターン・U ターンを実現するため、都市部の若者から町の魅力を発信していきたい。そのため若者にとって魅力となるような地域資源の発掘、また既存の地域の魅力の発信方法の工夫やアイデアを加えた商品化をすることで、若者にアピールしていく必要がある。加えて、脱日帰り・宿泊ゲストレーション化を目指していく上で宿泊施設の向上、整備も急ぎではなくなったが、進めていきたい。新型コロナウイルスの影響で宿泊を伴う旅行は制限される中、空き家を利用した民泊など、近場のトラベルバブル内で今後需要の高まる可能性のある宿泊施設は、今後も学生が率先して使用して改善を求めるなど整備を進めていきたい。

## 6 次年度以降の計画

今後の活動として具体的なものとしては、以下のようなイベントを引き続き企画・運営してゆく。

①氷柱後街歩きイベント「氷柱だけじゃない冬の横瀬町。撮って巡ってよこぜ旅」の実施

②春の「あしがくぼ里山まるマルシェ」

③秋の「あしがくぼ里山まるマルシェ&cafe 寺's YOKOZE」

これらのイベントは必ずフィードバックを行い常に改良を重ねていきたい。

①に関しては電子マップも作成予定で、コロナ禍における観光状況に対応した試みも次年度以降は強化していく。

また、すでに定例化したものだけでなくリピーターを増やすための新たな内容やアイデアを生み出していくことも大切にしていきたい。

現地の方々との交流を大切にし、地域のニーズを知った上で、学生が行いたい、参加したいと思う内容を積極的に実行していくことに、次年度以降も重きを置いてゆきたい。

### <活動の様子>

